

インドネシアの人口動態について

中川 智明

今回はインドネシアの人口動態について、よく言われる事と私の肌感覚をコメントしてみます。客観的な数値は他の情報源で入手可能と思われるので、ここでは私見やジャカルタで生活していて感じる事を記載させていただきます。

(インドネシアの人口動態)

2030年、インドネシアの人口は2017年比12%増の2億9600万人に達し、2017~2030年の間、引き続き世界で4番目に人口が多い国であることを維持するといわれています。平均年齢は2017年の28.5歳から2030年には31.9歳になるといわれています。

(日本との比較論)

上記の人口動態だけを見てもお分かりのように、インドネシアでは「高齢化」、「労働人口の問題」などは全く聞こえてきません。日本のコンビニエンスストアやファーストフード店の店員がことごとく外国人になっている現状からすると、かなりの違いがあります。日本人の私から見ると、インドネシア人は日本人のように「高齢化」による漠然とした不安感は全く感じておらず、それよりは将来に対する期待が大きく、希望に満ちているという印象です。具体的には「自分の給料は確実に増加してゆく」というのは当然のことで、多くの若者が「将来は独立して経営者になりたい」と言います。「独立して一人前になるために何十年修行をして、、、」というような、浪花節の世界は全くなく、皆が独立を夢見て、簡単に、いやむしろ安易に独立にチャレンジしてゆくような世界です。このような日本人からすると「安易」と思われるチャレンジでも、やはり社会全体としては結果的には上手くゆく事業も生まれたりして、経済の活性化に繋がっているのも事実であろうと感じます。

<社会の変化の早さ>

上記のような流れの影響を受けているかは不明ですが、インドネシアでは新しい事業があっという間に社会を変えて行きます。例えば、固定電話が流行る前に携帯が出回り、パソコンが流行る前にスマホが出てきましたし、今はカードが流行る前に電子マネーが広まろうとしています。日本のように、既存の事業が固まってしまい岩盤規制と一緒にあって抵抗勢力化することもないので、新しい事業(流行)があっという間に世の中を変えて行く印象です。

良い面悪い面はあるのですが、その変化のスピードは驚くほどです。特に若者やチャレンジしようとする外資の進出企業には、この点は好ましい環境であると言えます。

上記のような相違がある日本とインドネシアですが、幸いにも、日本人の先輩方の努力のお陰でもありますが、インドネシア人の多くは日本が好きで、リスペクトしてくれています。双方の違いを生かしながら、日本とインドネシアで連携して発展できればと、いつもいつても、願ってやみません。



【ジャカルタの街中の人混み】